

第7回 石神井庁舎跡敷地活用検討会議

議事録

日 時 令和7年7月10日（木）16時30分～18時00分

場 所 練馬区役所本庁舎5階 庁議室

出 席

【委員】小泉会長、今井副会長、高口委員、近藤委員、吉原委員、豊田委員、
栗原委員、松浦委員、森委員、関委員、沖委員、井越委員
(以上12名出席)

【高校生】3名

【区職員】企画部長、施設管理担当部長、都市整備部長、企画課長、
企画担当係長、事務担当職員

【コンサルタント】4名

傍聴者 3名

会議次第

- 1 開会
- 2 石神井庁舎跡敷地の活用に関する提言（案）について 【資料1】
- 3 今後の進め方について

1 開会

■企画部長

定刻となりましたので、第7回の石神井庁舎跡敷地活用検討会議を開催します。
本日の議題に入る前に、事務局から委員の出席状況と傍聴者の報告、資料の確認をお願いします。

■事務局

現在、12名の委員にご出席いただいております。併せて高校生3名に参加をいただいております。

本日の会議も公開であり、傍聴の方は3名いらっしゃいます。

会議録を作成するために、録音をさせていただきます。会議録は、委員のお名前は伏せた上で区のホームページに掲載する予定です。掲載前に、委員の皆さまにお送りしますので、ご確認をお願いします。

<資料確認>

事務局からは以上となります。

■企画部長

それでは、今後の会議の進行は、小泉会長にお任せいたします。よろしくお願いいたします。

2 石神井庁舎跡敷地の活用に関する提言（案）について【資料1】

■会長

早速、本日の会議を開始したいと思います。よろしくお願いいたします。次第1の開会が終了したと考えておりますので、次第2の「石神井庁舎跡敷地の活用に関する提言（案）について」、事務局から資料1「石神井庁舎跡敷地の活用に関する提言（案）」の説明をお願いします。

■コンサルタント

表紙をめくっていただき、目次となります。

本提言の構成は、「はじめに」のあとに1章として「提言」、2章として「石神井庁舎跡敷地活用検討会議委員名簿、検討経過等」、3章に「参考」という順番で構成しています。

前回検討会議の最後にご説明した構成から資料説明の順番等を入れ替えました。提言の章を最初に持ってくることで、より伝えたいことが分かりやすい構成としました。

1ページです。「はじめに」では、本会議の会長を務めていただいております小泉会長のことばを記載しています。こちらは別途ご確認いただければと思います。

2ページは「1 提言（石神井庁舎跡敷地の活用策）」を記載しています。大きな活用コンセプトは、前回の検討会議でご説明させていただいた『「ワクワク」と「ゆるゆる」が繋がる場』としております。副題として、「～シンボリックでデザイン性に優れた新施設を目指して～」という部分を、これまでのご意見を踏まえて追記しました。

また、「コンセプトを実現するための5つの視点」につきまして、前回の検討会議では当該箇所を「コンセプトを実現するための基本方針」と記載していましたが、図の上段に記載している「石神井庁舎跡施設・跡敷地活用に関する基本方針」と表現の重複がありましたので、5つの視点という表現に修正しています。他は、前回ご報告した内容となっています。

3ページになります。これまでの本検討会議の簡単な経緯をまとめており、これまでの議論を通じて、コンセプトと5つの視点を取りまとめ、これらをベースに区において検討が進められることを期待している旨を記載しています。

なお、ページ下段に写真掲載予定としており、令和7年1月の第4回検討会議でのワークショップの風景、成果物を掲載させていただければと思っています。

そちらに加え、本日の検討会議の写真も、異論なければ、掲載させていただければと思っています。

4ページになります。こちらは第6回会議での資料やいただいた意見をベースに作成しています。ここでまとめた望まれる空間・機能は各視点から導かれる空間イメージの具体化を図ったものとなっています。

新たな施設の建築は、区民事務所等の機能が再開発ビルに移転してからとなります。着工にはまだ時間的余裕があり、施設に求められるニーズが変わっていくことも考えられます。そのため、現時点では、〈検討会議で挙げられた意見〉として機能の例示をまとめることに留めることとしました。検討会議でご意見いただいたように、新たな施設単体で機能を考えるのではなく、石神井公園エリア全体のまちづくりの進捗等を踏まえて、然るべき時期に具体的な機能を絞り込むことが望ましいと考えました、という記載をしております。

また、ここもご意見いただいたところですが、新たな施設規模を考えると、議論で挙げられた機能例を全て実現することは困難と考えられることから、敷地周辺施設の機能との重複は避け、周囲と調和した施設としていただきたいと願っている、とまとめています。冒頭コンセプトのとおり、区民の方に愛され、愛称をつけていただけるような、建物だけではなく敷地全体がシンボリックなデザイン性に優れたものとなることを期待している、と記載しています。

以降、5つの視点に沿った「空間イメージ」、「望まれる空間・機能」、「検討会議で挙げられた意見」を記載しています。検討会議で挙げられた意見については、第6回検討会議でシールを貼っていただきながら議論いただいたものをベースとして、一部絞り込みを行っています。1～5の視点それぞれについての説明は割愛します。

7ページですが、いただいた意見をベースに施設の簡易的な施設のイメージを掲載させていただければと思っています。

1つ目は、施設の外からのイメージです。地域の中でシンボリックな施設として建物外部にも賑わいが滲みだすようなイメージを作成しました。みどり豊かなオープンスペースや壁面緑化、キッチンカーの出店等、多様な方々の拠り所となる空間を表現しています。

つぎに、屋内でゆったりと過ごせるような空間がある「ゆるゆる」を表現したイメージです。また、施設内外の賑わいの繋がりも感じられるような空間・設えを示しています。

こちらは、新たな施設のデザインを規定するものではありませんが、これまでの議論を踏まえたイメージを分かりやすく伝えるものとして作成したものとなりますので、後ほどご意見をいただければと思います。

8ページになります。「1-3 新施設の整備にあたっての配慮事項」についてです。これまでの議論を踏まえて3つのテーマを配慮事項としてまとめています。

1つ目が「石神井地区のまちづくりとの調和」についてです。新たな施設がどのような役割・機能を担うべきかを整理し、駅からの導線や人の流れをはじめ、石神井地区のまちづくりとの調和が図れるような計画を望みます。今後とも、地域の声を反映しながら検討を進めてください。具体的な機能を考える上では、再開発事業や富士街道との道路付け等、周辺のまちづくりを踏まえて機能を精査することを望みます。また、石神井に元々ある機能や特徴を活かして、新たなコミュニケーションや回遊性等が生まれるような仕組みとなる計画を期待します。緑化については、周辺との一体性を考慮した整備を望みます、と表現しました。

ページ下部につきましては、これまでご意見いただいたとおり、施設単体で考える事業ではなく、周辺の駅や施設さらには石神井公園、松の風文化公園等との回遊性を踏まえた検討が必須であることから、石神井庁舎周辺の回遊性を可視化する図を掲載予定としています。

9ページです。2つ目として「跡敷地活用（新施設）のコンセプト等の実現」では、多くの機能を導入することで結果として中途半端な施設とならないよう、「ワクワク」と「ゆるゆる」のバランスをとることが重要と考えます。ハード面だけでなく、イベント等のソフト面も併せて柔軟な発想で検討することを期待します。新施設の各機能について、用途や利用者を想定し、空間の在り方やフロア構成等を検討する必要があると考えます、としています。

また、新たな施設は数十年にわたって利用される施設です。時代の変遷に伴うニーズの変化に的確に応えられるよう、機能の変更が容易にできる柔軟性のある施設を望みます。持続可能な社会を見据えた環境面への配慮も行ってください、と記載しています。

さらに、不整形な敷地であることを強みとして、敷地形状を活かすことや、複数機能の組み合わせやプログラムを工夫することで、面白い場所になるよう検討ください、としました。

3つ目は、「施設整備・運営の手法」についてです。これまで提案してきた機能を実現するには、区財政に大きな負担がかかることも想定されます。新たな施設の整備にあたっては、民間活力を導入するなど、事業手法を検討してください。なお、他自治体では、市民との協働で施設を運営している例もあります。施設整備や運営をはじめ全般にわたり、区民や地域団体等との共創を図ってください、といった内容を記載しています。

10ページです。「1-4 委員からのコメント」としてありますが、こちらは、皆さまから、本活用事業に関する期待等のコメントを改めていただき、提言に掲載させていただければと思います。

提言に関する説明は以上となりますが、13 ページ以降では、本検討会議の委員名簿、検討経過等を記載しており、16 ページ以降では、参考資料としてこれまでの対象地の概要等を改めて記載していますので、ご確認いただければと思います。資料1についての説明は以上です。

■会長

ご説明ありがとうございました。それでは皆さんから、ご意見ありますでしょうか。

■委員

全体的に良くまとまっていると思いました。全体の基本コンセプトについて、2 ページに図の掲載がありますが、本文中に説明がないため、高校生から意見が挙げられたこと等は特筆しても良いと思いました。

具体的な空間機能は、日常の居場所として子育て関連の意見が多数挙げられていましたが、提言では「親子向けイベント」という記載に留まっているので、「子育て支援」と明記したほうが良いと思いました。また、多彩な活動の「起業支援イベント」については、単発的な印象を受けるので、「起業支援スペース」のほうが適切だと考えます。

■会長

ありがとうございます。今の点について、事務局はいかがでしょうか。

■事務局

コンセプトの説明については、第6回の検討会議にてスペースと機能と体験の関連について説明させていただきましたが、そちらを表現する部分が提言にないと思いますので、区と相談した上で検討したいと思います。

子育て支援については承知しました。

起業支援イベントについては、ハードとソフトを明確に区分けして記載することが難しいということで、分けずに記載した経緯があります。分かりにくいという点は、ご指摘のとおりかと思しますので、検討させていただきます。

コンセプトが高校生の発意である点については、1 ページ目の会長のコメント内で「地域の未来を担う若者ニーズを取り入れる」という内容を記載していますが、コンセプトがグループ3の発意である点を明示した方がよろしければ、そちらも検討させていただきます。

■会長

コンセプトについては、現状図の記載はありますが、かみ砕いた説明があったほうが良いと思います。また、「ワクワク」と「ゆるゆる」という表現について、高校生から発案されたことを明記し、「ワクワク」とは何か、「ゆるゆる」とは何か、という説明を記載した方が良いと思います。

また、起業支援については、起業支援スペースの方が良いと思います。継続的に起業支援を行うイメージのほうが良いと私も思いました。

他にいかがでしょうか。

■委員

多彩な活動について、町会としても力を入れて活動していますので、できれば自治会・町会の活動の場についても記載いただけるとありがたいと思います。

■事務局

検討会議で挙げられた意見として会議室という記載していますが、それでは不十分というご意見かと思しますので、会長と相談をさせていただいた上で検討したいと思います。

■会長

会議室（町内会、自治会等）というような記載方法は検討できると思いました。

また、本日の写真撮影については問題ないでしょうか。写りたくないという方がいれば、配慮できればと思いますがいかがでしょうか。皆さま問題ないとのこと、承知いたしました。

他にご意見いかがでしょうか。

■高校生

ワークショップで「ワクワク」と「ゆるゆる」のコンセプトを抽象的に描いたものが、シンボリックなデザインにも繋がるようなきれいなコンセプトになっており、とても良いなと思いました。

■高校生

私も提言が全体的にとっても魅力的だと思いました。

■高校生

今日は庁舎に来るまでとても暑く、今年の今くらいの時期から検討が始まったことを思い出しました。今年の検討は建ぺい率の話等から始まり、近隣の施設に視察に行ったり、中身の話を進めたり、検討した内容が提言としてまとまっていて、感動しました。

本日、施設デザインの発表の時間をいただけると伺っていますが、よろしいでしょうか。

■会長

後ほど発表いただければと思います。

それでは、皆さんから順にご意見をいただければと思います。8ページ以降の配慮事項も大変重要だと思しますので、ご意見があれば発言いただければと思います。

■委員

今まで検討したことがまとまっていて、特にコンセプトが分かりやすく良いと思いました。1点、今後もニーズが変わるかもしれないという記載があり、その点は心配に思いました。

■会長

私の理解として、検討会議で挙げられた意見については現時点では決めきれないと思いますが、コンセプトや5つの視点の空間イメージ、望まれる空間・機能は、提言の内容をベースに検討を進めていくと理解しています。そのような理解でよろしいでしょうか。

■事務局

ご指摘のとおりです。

■委員

見学に行った武蔵野プレイスが非常に印象的で、コンセプトを見れば見るほど武蔵野プレイスのようなイメージが膨らんでいっています。どのような建物になるかワクワクしています。

最後に施設整備の運営と手法について、中村橋の美術館と図書館が、今年度解体に着工すると理解していますが、工事費予算は全体で100億円にもなる認識です。その財政負担は、区民にのしかかるものです。

今回の庁舎跡地の活用では、少しでも区民や将来世代の負担が減らせるように、周辺区有施設の売却についても検討いただけると良いと思いました。提言には記載できないかと思いますが、案が挙げられたことは残していただくと嬉しいです。

■委員

去る5月18日に開催された石神井池淵町会の総会において、約30名の町会関係者に庁舎跡敷地活用検討会議の途中報告をいたしました。私自身この一年間検討してきたことを改めて整理することとなって、それなりに上手く説明できたと思っております。特に、高校生から出た「ワクワク」と「ゆるゆる」というコンセプトが受け入れられておりました。我々世代のグループからも同じ様な意見が出ていたのですが、それを端的に表現できたことから町会の皆さんにも理解していただけたのではないかと思います。

石神井公園は東京23区内ながら都会的な立地ではなく、今後も先鋭的なビルが林立するエリアになるとは考えられないため、本施設が公園と駅周辺を繋ぐゲートウェイとして機能するシンボリックな場となればよいと思っております。都内であっても自然環境が豊かで田舎っぽい景観が残っているのが石神井の良さなので、それを表現しつつ、色々な目的をもって人々が集う「ワクワク」する場所であり、そ

の一方で一人でものんびり過ごせたり、通り抜けしたくなるような「ゆるゆる」な施設ができることを大いに期待しております。

■委員

改めて資料に落とし込むことで、解像度が高くなった印象があります。しかし、基本方針の「世代を超えた活動・交流」を表す視点について、5つの視点のうち、日常の居場所において「多世代の生活を応援する機能」という記載があるが、これが活動や交流を表しているのかどうか明確でないのではと懸念しています。

また、イメージ図について、具体的なイメージ図ではないと理解しつつも、キッチンカーが並んでいる様子や屋外や屋内の座れる場所が図示されており、見た目で分かりやすいですが印象が強すぎると思いました。今後の具体的な検討にあたり、現状のイメージ図もキャッチーなものとなっていますが、これができることと捉えてしまっても良いのかどうかと気になったところです。もう少し「ワクワク」できるような、今までにない施設として期待値が高まるものであってもよいのではないのでしょうか。

■会長

コンセプトの中で「～シンボリックなデザイン性に優れた新施設を目指して～」と記載しているように、デザインについては区が今後の検討の際に配慮するものであると考えています。コンペで建築家から提案いただく際の評価項目としてシンボリックでデザイン性があるものを重視することで、単に要素を箱に収めたものではなく、武蔵野プレイスに負けない象徴的なものにするということができるのではないのでしょうか。

図は、空間活用のイメージ図が分かるものであればよいのではないかと思います。もし改善するとすれば、室内の方の図は「ワクワク」と「ゆるゆる」というコンセプトをもとに、「ゆるゆる」を表す、くつろいでいる様子が見える雰囲気分かる図であれば良いのではないのでしょうか。

■委員

仰るとおり、「ワクワク」と「ゆるゆる」の2つのイメージが明確に掴めるようなイメージ図がよいと思います。

■会長

イメージ図についてはブラッシュアップするよう検討します。

■委員

私も気になっているのはイメージ図についてです。「ワクワク」と「ゆるゆる」を対比したイメージ図としたいのであれば、そのように記載された方が分かりやすいのではないのでしょうか。

「ワクワク」のイメージをキッチンカーとする、「ゆるゆる」のイメージをハンモックにしているのは、テンプレートすぎるので、イメージ図はなくとも良い

のではないかと思います。今まで議論した内容には、ボルダリング等個性的な意見もあったことから、この形状に落ち着いてしまうのはもったいないため、この図は不要ではないかと思います。

■会長

事務局と相談して有無も含めて検討したいと思います。

■委員

「新施設の整備にあたっての配慮事項」に関して、感想を述べさせていただきます。1-2の「新施設に望まれる空間・機能」として、「石神井公園のエリア全体のまちづくり」と記載があります。全体とは駅の南側のみ指すのか、男女参画センター等も含めた南北をどう調和させるのかを指すのか、どちらでしょうか。本提言では石神井庁舎跡地の利活用なので再開発事業や富士街道が重要であることは理解しつつも、南北の調和をどのように落とし込んでいくのか、適切な表現としていただきたいと思いました。

■会長

本施設は南北の繋がりを作る位置でもありますので、ご指摘の点を検討していきます。

■委員

「はじめに」の中で、石神井庁舎跡敷地を貴重な公共財産と記載いただけたことは心強いと感じました。様々な類似の地区の再開発をみると、売却して民間マンションとするものが多いと感じています。本件のような方向性を決断されて取り組もうとされていることは素晴らしいと思っていたので、冒頭に小泉会長の言葉で記載されたことはありがたいと感じています。

「新施設に望まれる空間・機能」について、実際に石神井地域に住む中で駅や石神井庁舎の近辺を歩くことがあります。長い年月をかけて実現されてきた鉄道高架下等のまちづくりがまちの魅力に大きく貢献していると思います。提言において、まちづくりと新施設を関連付けている点は良いと思いますし、それにより実現されようとしている街の回遊性も、新施設の整備効果を高める上でもとても重要であると思います。

1-3の「新施設の整備にあたっての配慮事項」の「石神井地区のまちづくりとの調和」の4行目に「具体的な機能を考える上では、再開発事業や富士街道との道路付けなど、周辺のまちづくりを踏まえて機能を精査することを望みます」とありますが、石神井公園の存在が当たり前になっているせいか、肝心の石神井公園との関係が抜けているのではないかと思います。ソフト、ハードの両面から石神井公園との関係性に触れる必要があるのではないのでしょうか。なお、以前、石神井公園と新施設間の道路について述べさせていただきましたが、ハード面で

の対応は短期間では現実的に難しいところもあるので、ハード面だけではなくソフト面も意識し上手く工夫されることが重要だと思いました。

最後に「ワクワク」と「ゆるゆる」というコンセプトは、自分では到底思いつかないアイデアだと思いましたが、高校生の皆さんの意見はとても貴重だと感じています。若い方と自分たち世代の考えていることのベクトルは同じでも、視点、表現にバリエーションがあると感じました。今後の検討においても、若い方、子育て世代の方などの意見を取り入れることがとても重要なのではないのでしょうか。

■委員

2ページの図について、回遊性の矢印の向かい合っている先が融合を示しているような印象を受けます。図の中心に、シンボル図を作成し、施設のシンボルのようにすれば、精神を失わないことを示せると面白いのではないかと思います。

また、石神井公園の近隣にあることから、建物の内部に石神井公園の四季の映像を投影して、ほっとするような空間があっても良いのではないのでしょうか。

「新施設に望まれる空間・機能」として、「まちのゲートウェイ」にある「まち」は石神井公園を中心としたものだと思いますが、部分的でなく全体が良くなるような新施設を望んでおります。公の土地に作られることから、まち全体をリードする力が望まれると思いますので、区が区民のために安らげる場を目指していただきたいと思います。

また、3-3の「石神井庁舎の建物・敷地の状況」の敷地図についてですが、下部のくぼんでいる場所には、マンションが建っていると理解しています。今回の事業が大きな影響を受けると想定されることから、何かしら対応はできないものではないでしょうか。

■事務局

答えられる範囲でお答えします。ご指摘の場所には、3階建ての賃貸マンションがあります。敷地は私有地ですので、区の意向だけで対応することは難しいと考えております。詳細は申し上げられませんが、石神井庁舎跡敷地活用の検討状況について、所有者の方に都度連絡をしております。

■委員

皆さまの意見と同感で、簡潔に分かりやすくまとめていただいていると思います。細かい点ですが、いくつか指摘をさせていただきます。

1-1の「跡敷地活用（新施設）のコンセプトと5つの視点」について、「場」という表現が散見されるため混乱します。意図が間違っていないのであれば、「ワクワク」と「ゆるゆる」が繋がる場の「場」は広い意味を持つ「空間」に置き換えられるのではないのでしょうか。それによって5つの視点から導かれる「場」が生きていくのではと思います。

1-3の「新施設の整備にあたっての配慮事項」について、現状の回遊性を可視化する図について、現状は地図に公共施設がプロットされているのみです。新施設ができることで回遊性が生まれることを示すのであれば、別の図の方がよいのではないかと思います。例えば、それぞれ点をプロットするのではなく、回遊性を示す線が繋がっていると良いのではないのでしょうか。

また、この3項目のうち、2つ目の〈跡敷地活用（新施設）のコンセプト等の実現〉は当たり前であり、その上で配慮していただきたい事項を記載されているかと思いますので、項目名を変更するべきではないのでしょうか。プロセスが記載されている内容についても、時代の変遷に伴うニーズの変化に的確に応えられるよう、という部分が重要だと思います。

本会議の成果は、多様な世代が一堂に会して意見を共有してともに理解できたところにあり、多くの委員の皆さまも同様の趣旨でご発言されていたと思います。ニーズ、時代、社会の変化を捉えるために、多様な世代の意見を積極的に収集して共有するというプロセスを入れながら柔軟に応えるというように、プロセスに関することを記載しても良いのではと思います。

■会長

重要な点だと思いますので、いずれも反映いただきたいと思います。

■副会長

総じて分かりやすいと感じました。私は福祉が専門なので、1-1「跡敷地活用（新施設）のコンセプトと5つの視点」の「ゆるゆる」の説明に、「誰もが集える場」と記載する際には少し工夫が必要になるかと思います。「誰もが」という言葉を当事者から考えると、本施設を利用する方であれば誰でもということになるでしょうが、その中には施設に来ることが叶わない方もおられます。生きづらさを抱えている方、高齢者でも要介護と元気な方は異なるので、どんな方でも来られるようにとするのであれば、イメージ図は慎重に作成された方がよいと思います。

また、「ワクワク」は良いが、「ゆるゆる」のイメージ図に誰もが集えるという意味を反映するのは難しいため、ターゲットを広げるイメージが必要だと思います。例えば、委員から町会、自治会の活用という提案がありましたが、誰もが来られないのであれば、その当事者を支える方のための場を作ることによって、反射的利益を得ることも可能かと思います。来られる方のみを対象とするのではなく、来ることができない方を支えているような方が使える場という形のコンセプトをとれば誰もが来られる場となると思います。広がりを出すための表現を入れた方が誰もがという言葉が俯瞰できるのではと思います。

■会長

現状の「ゆるゆる」の説明にある「誰もが」という表現は、施設に来た人が憩えるという解釈だと思います。しかし、ご指摘いただいたように、新施設に来られない人の観点を記載することも重要だと思います。提言のどこに入れるかは検討が必要ですが、入れていきたいと思います。

皆さんからいただいたご意見の中で、提言から石神井公園というキーワードが消えていたと気づきました。デザイン、回遊性を検討するときに石神井公園を想起できる案もあったため、石神井公園を中心とするべきでした。回遊性についても石神井公園に人をどのように流すのかという話から商店街からのルートが注目されていた経緯がありました。様々な施設に注目するのではなく図面をアップして、施設、商店街、石神井公園を回遊できるものにするべきと考えます。

また、意見があったとおり、「世代を超えた活動・交流」というキーコンセプトが後ろに十分に反映されておりました。5つの視点のうち、「4 多彩な活動」の空間イメージ「創造的活動を支える、自由度の高い場」について、クリエイティブ思考に寄った表現になっているので、変更したほうが良いのではないかと思います。例えば、多様な世代、多様な人々の創造的活動を支えるというように加筆した方が趣旨に合っていると思います。色々な人が思い思いの活動ができることが重要なので、多世代の方が集うこと、様々な方を支えている人々がネットワークを広げることにも繋がるので検討いただきたいと思います。

よろしければ都市整備部長と施設管理担当部長からもご意見をいただけないでしょうか。

■施設管理担当部長

施設管理担当は、施設の整備を行い、設計、施工を行う部署であるため後から本件に関わる立場であります。もう少し先の工程となりますが、コンセプトづくりから検討に参加できる機会は貴重だと感じております。実施段階でコンセプトを忘れてしまうこともあるため、初期段階から参加させていただくことは重要であり、今後の設計・施工段階の参考とさせていただきたいと思います。

■都市整備部長

検討会議でいただいた回遊性をはじめとする様々なご意見が印象に残っております。俯瞰的にみて、石神井公園のあるべき姿を検討していくべきだと感じたとき、高架下を含めた様々な施設との回遊性を考慮していくべきだと思います。全体を見て、そこから漏れるような施設があれば誘導できるように仕掛けを検討していきたいです。このコンセプトを活かして、石神井公園の発展に寄与させたいと思っています。

■会長

ありがとうございます。ここで、高校生から施設のイメージ案を作成いただいたので、説明をいただければと思います。

■高校生

「ワクワク」と「ゆるゆる」という2つの単語から賑わいや遊びのある空間、落ち着ける空間が確立しつつ、行き来できる空間のイメージを作成しました。

コンセプトの「ワクワク」は興味関心をそそる仕掛けや発見があり、趣味や活動に打ち込める場、「ゆるゆる」は人が集まる心地よい居場所としました。特に、施設内のアクセスが簡単である建物、完全にラベリングされていない連続的な場所、全体像が分かるような建物、誰もが楽しめる空間でいて、必要な仕切りは入っていて誰もが快適に過ごせる建物であれば良いと思います。

つぎにステージのイメージとして、新施設の中心に古代ギリシャのポリスに存在した円形劇場をモデルとして、中心のステージを周辺の階段から見下ろす構造をイメージしました。

これは、ステージから階段が放射状に広がるものとなっています。円形劇場は市民が集う場として使用されていたため、石神井庁舎跡地の新施設も全ての人の意見を取り入れて楽しめる場所としたい意図があります。ステージで行う活動としては、高校生の部活発表や子どもの遊び場を検討しています。また、ステージを使用しない場合も周辺の階段に腰かけて人々が対話する等といった活用を想定しています。階段を上った先は、別の建物に繋がることを想定しており、飲食をする場、図書館や自習室、アクティビティができるようなフリースペース、会議など用途が決まっていない流動的に変化する場としました。石神井庁舎の敷地が完璧な四角形ではないことから、隙間を活かす構造としてこのような想定をしています。

にぎやかな場所であるステージを中心に、静かな場である図書館、自習室と流動的な場であるフリースペース、アクティビティルームを離す想定で、それぞれの場所がステージで繋がりがつつも区切られている場所を考えました。

また、食堂についてのイメージをしました。吹き抜けの2フロアを想定しており、1階はにぎやかな場所としてひょうたん型・雲型の机を配置することを想定しています。2階は静かな場所として四角形の机を配置することを想定しました。完全に音が遮断されることはありませんが、1階は子どもが走っても問題ないような雰囲気想定してフロアの区切りを排しており、2階は吹き抜けの周りに少人数を想定した机を配置しています。

また、無駄なく敷地を活用するため、建物は四角形でできなかった時に、六角形の建物も考慮することも想定しました。

■会長

ご説明ありがとうございました。それでは皆さんから、ご意見ありますでしょうか。

■委員

「ゆるゆる」から出発して落とし込む手順が素晴らしく、手法は実際の計画としても活かせると思います。

■委員

高校生のアイデアとして素晴らしいと感じました。その上で、専門的なフィードバックを少しさせていただきます。

建物を考える上でのプロセスは違和感がありませんでした。機能で分担したスペースをダイアグラムとして書き起こし、3次元への落とし込むという順序で全体の構造化を行う手順はできていると思います。一方で、コンセプトの重要なキーワードとして「ラベリングしていない連続的な場所」とありますが、どんな構造であると成り立つのか、さらに検討できると素晴らしいと思いました。ちなみに円について、平面的には中心性をもつ造形であり、中心に引き込まれたり、発散さえたりすると言われています。本件に相応しいのか、改めて考えるとより良いのではないかと思います。

■会長

非常に面白い提案で素晴らしいと思いました。特に食堂のスケッチが素晴らしいと思います。整えたものよりスケッチの方が影や雰囲気が出ていて、空間のイメージが分かりやすいと感じています。ラベリングされない連続的な場のデザインを、流動的に変化する場所でトライされたと思いますが、設計的に難しい場所であるので今後探求するのにふさわしいテーマだと思います。素晴らしい提案なので、本人と委員の皆さまの許諾があれば、今回の補足資料として提言に載せてもよいのではないかと思います。皆さまいかがでしょうか。

■高校生・委員一同

問題ありません。

■会長

では、出典を明らかにして載せる方向で検討します。

提言は、本日いただいた意見を踏まえ、事務局と私で調整し、最終的に区に提出を行いたいと思います。集まって議論する場は今回で終了となりますが、成果物は皆さまにご確認いただいた上で提言を提出させていただきます。

また、事務局の説明にあった本活用事業に関する期待等のコメントについては、後日事務局へお寄せいただきたいと思います。

3 今後の進め方について

■会長

区への提言提出に向けた今後の進め方について、事務局より説明をお願いします。

■企画課長

本日も様々なご意見をいただきありがとうございます。本日いただいたご意見による修正や感想を、提言案に反映します。この1年間、本当にありがとうございました。

会議やワークショップの様子を撮影した写真等も掲載したいと考えています。反映させた提言の内容をメールや郵送等でお送りしますので、各委員にご確認いただき、修正や写真掲載を望まない場合には、事務局までご連絡をいただければと存じます。

資料の名簿についてです。高校生については調整中としております。高校名やお名前が出ることで何らかの支障が出る恐れもありますので、ご本人はもちろん、学校、ご両親に確認をいただき、ぜひ慎重にご検討いただければ幸いです。一方で先ほど、高校生から提出いただいた資料を出典付きで公表するという話も挙がりましたことから、こちら調整を行わせていただきたいと思います。

提言は最終確認を会長にお願いした上で、提出の運びとなる予定です。提言が区へ提出された後の動きについても、少し触れさせていただきます。いただいた提言を十分に踏まえ、事業の実現可能性等に関して民間事業者等へのヒアリング等を行う予定です。その後、施設の複合化や事業手法について区でも検討し、その結果について区民や区議会からのご意見を伺い、石神井庁舎跡敷地の活用基本構想を策定したいと考えています。こちらは、来年度中にかけての動きとなるかと思えます。今後も、基本構想の素案や成果物等、委員の皆さまにぜひ共有させていただければと考えています。石神井庁舎跡敷地の建設に関する事業着手は、再開発ビルへの機能移転後になりますので、現段階では、令和11年度以降になる予定です。

■会長

事務局からの説明に、ご質問等がありますでしょうか。特にないようなので、皆さまが一堂に集まる検討会議は、本日をもって終了となります。一年にわたり、ご参加いただき、ありがとうございました。

以上